高梁川流域連盟の活動について

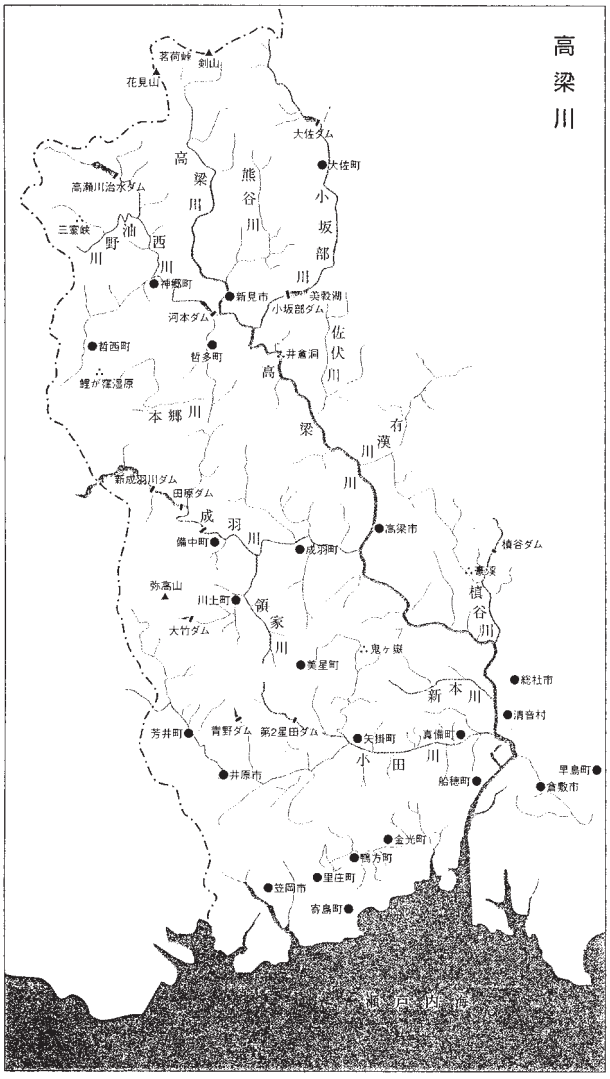
ー47年間の歩みー

高梁川流域連盟事務局　倉敷市教育委員会　生涯学習課　石井　宏一

高梁川の概要

高梁川は岡山県の3大河川の一つであり、岡山県西部に位置し、その源は中国山地の花見山（標高1,188m）に発し、瀬戸内海の水島灘に注ぐ、延長111kmの河川です。流域には岡山県内の26の市町村が位置し、上流域には一部広島県を含むなど、流域面積は2,670km^{2}にのぼり、全国で23位に位置しています。

河川の特性として、淡水魚の出現数は全国のベスト10位以内であるなど、豊かな自然環境を保っております。また古来より、高瀬舟による物資の移動にも重要な役割を果たして来た歴史もあります。



高梁川流域図

高梁川流域連盟の設立

高梁川流域連盟の設立を提唱したのは、倉敷市出身の実業家・大原總一郎（1909～1968）です。總一郎と父・孫三郎、祖父孝四郎の大原三代は経済社会への貢献とともに、社会文化事業に対しても力を注いでいました。数ある社会文化事業の中でも、孫三郎が開設した、我が国で最初の西欧絵画の美術館である大原美術館は、その代表的なものです。

また、總一郎は昭和27年にユネスコ国内委員会委員に就任するとともに、世界の平和と教育・科学・文化の発展と国際交流をめざすというユネスコの理念を、郷里の地域文化において実現しようと構想しました。若い頃、ヨーロッパ各国を視察し、ドイツのライン川が、文化と産業の大動脈であることに魅せられ、郷里の高梁川も人々を結びつけてきた地域の「紐帯」となっていることから、当時の高梁川流域の88の自治体による連盟をつくり、「文化共同体」を創っていこうと考えたわけであります。

そして連盟結成準備会を経て、昭和29年3月8日

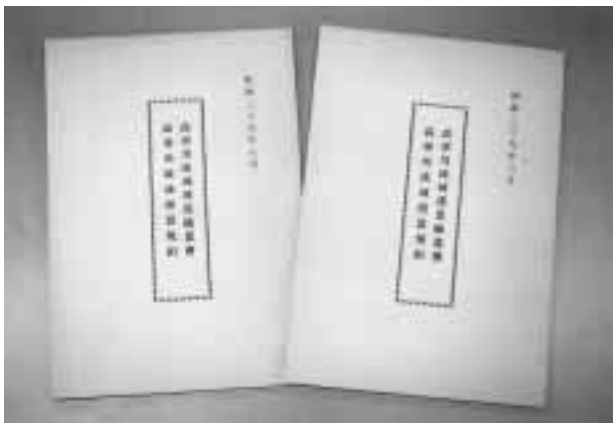


写真1　昭和29年発行の設立趣意書の写真

高梁川流域連盟の活動について　ー47年間の歩みー

高梁川流域連盟事務局　倉敷市教育委員会　生涯学習課　石井　宏一

に自治体会員24、個人会員24名、法人会員81団体をもって正式に発足しました。

高梁川流域連盟の組織

現在の組織は、正会員として流域の市町村が6市、17町、1村の24自治体が加盟しています。これは、高梁川本流に接しない2つの自治体以外は流域内全ての自治体が加盟しています。また、連盟の趣旨に賛同する特別会員として、法人が24団体と38名の個人会員により組織されています。

収入は、会費として正会員は人口4,500人あたり1,000円を負担し、法人会員は1口5,000円以上、個人会員は1口3,000円以上となっています。

その他には、倉敷市からの特別負担金、寄付金、機関誌の売上げ金及び広告料等があり、1年間の予算額は約700万円となっています。

事業活動について

流域連盟はその活動目的である会員相互の親睦理解を深め、流域全般の文化向上に寄与するために次のような事業を行っています。

1）機関紙「高梁川」の刊行

高梁川にまつわる歴史、文化、自然等多岐にわたる記事をとりまとめた機関誌「高梁川」を発行しています。昭和29年10月に第1号を発行して以来、昨年の12月に発行した58号まで脈々と続いています。機関紙「高梁川」は会員に配付するとともに、流域内の高等学校、美術館、博物館等の公共施設にも送付しており、貴重な郷土誌として、愛好者のみならず、各方面からも高い評価を得ています。また、一般書店でも販売を行っていますが、ちなみに58号はA5版336ページで1,400部発行しましたが、地元紙の紹介もあり、残りが僅かとなる人気です。今後も、年に1号ずつの発行を計画しています。

写真2　機関紙「高梁川」の1号と最新号の58号の表紙写真

2）奨学金制度

連盟に加盟する市町村の在住者で、学業優秀であるが経済的理由により修学困難な大学生に対し、昭和29年の連盟発足時より、奨学金を支給しています。専攻学科は限定せず現在は、月額1万円を4年間、支給しています。募集については、流域内に所在する各高等学校へ案内を行い、各高校長より推薦された者の中から選考し、毎年3名を決定していますが、ちなみに、12年度は8名の応募があり、3名を決定しました。現在まで、この奨学金制度を利用した学生は、138名を数え、卒業生は官公庁・企業・教育界等他方面にわたり、社会的貢献をしています。

この奨学金制度の発足にあたっては、ロータリークラブと提携を行っており、現在においても、倉敷市内の4つのロータリークラブから、寄付金を受領しています。

予算は、1学年3名を4学年支給しているため、年間144万円となります。

3）体育活動

流域内の中学校・高等学校の参加による、「高梁川流域中学・高校リレー大会」を開催しています。第1回大会を連盟発足年の昭和29年の10月に開催して以来、平成12年9月の第47回大会まで、流域

内の市町村を巡回しながら、毎年、開催してきました。　昨年の大会からは、従前からのトラック競技にフィールド競技も加え、流域内の25の中学・高校から、選手約400名が競技に汗を流しました。現在では、毎年9月23日の「秋分の日」の開催に固定しており、各学校も年間行事に計上するという、地域に根ざしたイベントとなっています。

予算は年間50万円以内で執行しています。

4）文化事業

流域連盟の主な目的である文化の向上に関して様々な行事を行っていますが、現在、実施している主な事業を紹介します。

①高等学校音楽会

流域内の高等学校の参加による、音楽会「ジョイフルコンサート」を概ね、年1回開催しています。昭和30年に第1回を開催して以来、平成13年1月に開催した音楽会で43回を数えました。約半世紀の間には、低調な時期もありましたが、現在では、運営の中心となる高校の先生方をメンバーに運営協議会が発足し、タイトルのとおり、観客のみならず、出演者も含め、関係するもの全員が楽しめるコンサートに創り上げています。今回のコンサート会場は流域の北部に位置する新見市で開催しましたが、交通の便、積雪等の条件が悪かったにもかかわらず、流域内の各地から15校の参加がありました。また、地元の中学校と伝統芸能である「子ども神楽」やプロの演奏者もゲストに迎え、誰もが楽しめて、感動の音楽会を実現することができました。

予算は、連盟より50万円を運営協議会に支出し、協議会はチケットの販売などにより約80万円規模で開催しています。

②高梁川流域の自然・フォトコンテスト

「高梁川流域の水と緑をまもる会」との共催により、平成4年から写真展を開催しています。「かけがいのない自然・人と自然のふれあいを」をテーマに流域の自然・川とくらし・自然破壊などの作品が多数応募されました。その中から審査により、61点の作品を表彰するとともに、優秀作品は、流域内の市町村において巡回展示を行うなど、高梁川の自然保護に対する啓発に努めています。

経費は、まもる会との共催であるため、あわせて30万円規模で実施しています。

③高校生絵画展

平成12年度に新規事業として、高校生の創造

写真3　第47回「高梁川流域中学・高校リレー大会」の競技シーン

写真4　第43回 高等学校音楽会「ジョイフルコンサート」のフィナーレ

高梁川流域連盟の活動について　ー47年間の歩みー

高梁川流域連盟事務局　倉敷市教育委員会　生涯学習課　石井　宏一

写真5　高梁川流域の自然・フォトコンテストの作品展示会（倉敷市役所会場）

写真6　第1回「流域高校生絵画展」の表彰式風景

力を育てるとともに地域文化の向上を目指し、作品を一堂に会し交流を図る目的で絵画展を企画しました。テーマは自由とし、規格については平面作品に限って自由としました。第1回目で、広報も不十分であったにもかかわらず、応募校数は12校、作品数117点にものぼりました。

そのうち審査により42点を表彰し、倉敷市役所において展示を行いました。

予算は、新規事業であり、約30万円を支出しました。

平成13年度以降の展示は、倉敷市立美術館において実施する予定で、流域内の市町村においての巡回展示も検討しています。

以上の事業が、現在実施している活動ですが、約半世紀にわたる活動の歴史の中では、時代の変化やその使命を終えたことの理由で、中止または廃止した事業も数多くあります。これら現在は行っていない事業を紹介します。

・自然科学専門委員会
・国画会工芸部展、流域児童生徒絵画展
・流域連盟主催俳句探勝会
・婦人文化講演会
・巡回レコードコンサート
・スライド巡回公開
・ユネスコ普及講演会
・外国ポスター展
・科学講演会
・定時制高校生弁論大会
・高梁川の歌の募集
・高梁川8ミリシネマコンテスト

以上が過去において実施したことのある事業です。

今後の流域連盟は

今回の栄誉ある受賞にあたり、流域連盟の創始者である故大原總一郎氏の先見の明に感服するとともに、先人達の努力と関係する方々の協力の賜物と考えております。流域連盟の約半世紀にわたる活動の実績の上に、今後も様々な事業活動を展開しながら、高梁川を軸とし、行政区域の枠を乗り越えた「文化共同体」を創造し、その文化向上と地域の活性化を一層図っていきたいと考えています。